

平成4年度 学校関係者評価書

学校関係者による評価

領 域	学校関係者による評価と今後の課題
学校運営	東日本大震災の10倍のダメージが想定される「南海トラフ地震」が30年以内に70～80%の確率で起きるとされる中で、本学の危機管理体制として危機管理に関する備品に対する意識が不十分である点が反省点として指摘されているが、具体的な意識徹底策としての対応を検討すると良い。 来客や労務補佐員に生徒があいさつをあまりしていないことが気になる。公立学校での取り組みを参考にあいさつ指導を徹底すべき。道徳教育の他、防犯にもなる。 クラウドファンディングとしてキャンプファイアを利用しているが、コミッションに費用が掛かる。直接寄付できる方策があるなら、分かり易くアピールすべき。 いじめ問題に対して、「心のアンケート」を実施し、生徒の悩みや心配事をキャッチすることができたとのことであるが、実際の具体的な悩みの具体的対応事例と成果を明示できると良い。 海外進学希望生徒に対する指導は、本校らしい強みを活かせる分野である。海外大学進学者を夏休み前に招いて「卒業生を囲む会」を実施する等の試みは高く評価できるが、実施運営上の課題があれば解決策を示すと良い。
教育活動	シラバス・カリキュラムの理解が徹底されていない教科があったとの反省点が挙げられているが、具体的な問題点を検証し、その期待効果を検討すると良い。 国際教養委員会報告に、「国際教養」「課題研究」の立案・実施に努めたとの報告があったが、現下のウクライナ情勢等をケースとして、実際に材料を共有して、生徒同士で自由闊達に議論するような場を設けるなど、現代的課題を授業で扱うとよい。また、JSL留学生との意見交換の場を設けたうえで、実施した場合、その時の生徒の反応や反省点等も確認できると良い。 地域との連携が弱い。練馬区との地域問題の共有、観光協会との連携などが必要。地域との防災訓練に参加しているのは評価できる。地域では散歩パトロールとして防犯のための「見せるパトロール」を実施している。このような活動に参加するのも良い。生徒の研究に世界規模のものが多く見受けられるが、地元注目した研究も促すと良い。
研究活動	他校研究会への参加をより積極的に促し、情報を共有する場を設け、本校の研究への活用を図るとあるが、2022年度内に実施した他校研究会の事例を具体的に示すと良い。 SSHを続けるだけでなく、続けない場合に学校としてどのような発展があるか検討しておくとう良い。
学生の教育支援活動	特になし
社会貢献活動	IB 委員会報告に、「Service and Action (MYP) と CAS (DP) の活動を学年や CAS アドバイザー教員と連携して促進することにより、社会参加を通じたシチズンシップの育成に貢献する」とあるが、具体的に直面した課題とその解決のために試みた施策と成果示すと良い。

評価の実施概要

対面会議を実施し、意見を収集した。メンバーの一部が同時双方向型オンラインでの参加となった。

資料として、学校経営計画及び数値目標の達成度合い、各分掌の点検・評価、学校アンケート結果、進路実績、年間行事予定表、学校要覧、パンフレット、ニュースレターを配付した。

開催日

令和5（2023）年3月14日